

大正七年三月十九日發受

警務部 第一課

常規

警務部參謀第二(壹號)

大正七年三月十三日 關東都督府陸軍參謀部

第5413號

要目付

普通報(時局)第一四號

露國時局

- 一、吉林督軍署參謀長ノ時局談
 - 二、東清鐵道督辦郭宗熙ノ晋京用務
- 新聞報
- 一、祖國及憲法議會積極的擁護極東委員會
- 布告

有子 哥薩克軍司令部員ノ拘禁

- 三、夕過激派ノ狀況
- 四、過激派ノ鑛業差押
- 五、地方紙幣ノ發行
- 六、鐵道ノ輸送力減退
- 七、酒精「ウオットカ」ノ釀造及販賣解禁
- 八、發疹「キフス」ノ流行
- 九、米國技師ノ來着
- 一〇、新西伯利政府
- 一一、鐵拳ハ理論ニアラス
- 一二、哈爾濱市執行委員會ノ東清鐵道長官ニ宛テタル警告

露國時局

一、吉林督軍署參謀ノ時局談

(結 閣 報 林)

吉林督軍公署參謀長王瑞林ノ西伯利方面ニ關スル時局談ハ極メテ不得要領ナルモ同人ノ語ル所大略左ノ如シ

一、西伯利方面ニ對スル我軍事計畫ハ直接之ト接壤スル吉林黑龍江奉天三省連合ノ上行ヲ必要トスルハ勿論ニシテ本督軍公署ニ於テモ夙ニ之ニ關シ畫策スル所アリシカ既ニ北京ニハ參戰督辦處ノ設立アリタルヲ以テ一般軍事上ノ計畫ハ總テ本機關ニ於テ行ハ

ルヘシ

二、前國務總理段祺瑞カ軍隊ニ師ヲ率ヒ近ク東三省ニ出動スヘシトノ說アルモ右ニ就テハ未タ政府ヨリ何等ノ通牒ニ接セサルヲ以テ果シテ確實ナルヤ否ヤモ明カラズ此際時局ニ對スル我國ノ態度方針ハ總テ貴國(日本)政府ト協議ノ上決定スルハ勿論ナルモ目下ノ形勢ヨリ察スルニ我國ノ露國ニ對シ積極的ノ手段ニ出ツルハ駐露公使ノ歸國後ニアルモノノ如ク今ヤ東亞ノ風雲ハ日ニ益々急ニシテ時局ハ刻々緊張シ来レルカ此ノ機會ニ於テ

具體的ニ日支兩國ノ提携ヲ見ルニ至リタル
ト尚又我南北ノ紛争カ之ニ依リニ先ツ和解
シ舉國一致外敵ニ當ラントスル覺醒アルハ
喜ハシキ事ナリ

三、今回露國ノ内情ヲ精探シ今後ノ方針ヲ確立
スルニ萬遺漏ナキヲ期スヘク貴國政府ト我
當局トカ一層此ノ方面ノ連絡ヲ密ニスルコ
トトナリタルニ就テハ余モ聞ク所ニシテ本
主旨ニ基キ爾後當公署ニ於テ探知シ得タル
西伯利方面ノ狀況ハ努メテ御通知スル考ヘ
ナリ云々

二、東清鐵道督辦郭宗熙ノ晋京用務(機關報)

三月六日哈爾濱ヲ出發シ七日北京到着豫定ノ
東清鐵道督辦郭宗熙ノ用務ニ關シ吉林滿鐵公
所ハ郭ノ上京ハ該鐵道ノ廢分問題ヲ政府ト協
議スルニアリトノ來電ニ接シタルカ尚本件ニ
就テハ吉林特派交涉署長王嘉澤モ東清鐵道ニ
關シ直接政府ト打合セヲ爲スニアル旨語り居
タリ

新聞報

一、祖國及憲法議會積極的擁護極東安

員會布告

(二月二十四日 滿洲報)

目前ノ時局ノ極メテ重大ナルコト及常置各機關ニ於テ現在實施シツツアル勤務ノ減少セルニ鑑ミ東清鐵道地帯ニ在ル各部隊司令部陸軍官衙諸機關ノ將校陸軍勤務員ハ祖國及憲法議會擁護極東軍團各部隊ニ編入ノ為證明書携行ノ上本年三月二日及三日午前十時ヨリ午後六時マテノ間ニ同軍團應募受附所ニ出頭セシコトヲ望ム

前述諸部隊官衙ノ長官及將校團ハ軍團各部隊ニ編入スヘキ總テノ人員カ適時ニ應募受附所ニ出頭スルコトヲ得シカ為傷病ノ為全ク戦列勤務ニ堪ヘザル少數ノ者ニ現在ノ勤務ヲ附課シ形式上ノ原因(職務ノ賦課)ニヨリ將校ヲ拘束スルコトナク總テノ手段ヲ講シテ此ノ計畫ノ遂行ニ協力セラレンコトヲ望ム諸部隊司令部軍隊官衙諸機關ノ長官ハ軍團ノ勤務ヲ免除スヘキ證明書ヲ與フル為現在勤務ノ為減サレタル將校ノ人名簿ヲ三月二日マテニ應募委員會議長宛送付セラレンコトヲ望ム

滿洲ノ境域内ニ在リテ當地ノ各部隊司令部陸軍官衙諸機關内ノ勤務ニアラサル總テノ將校陸軍勤務員ニ對シテハ當軍團各部隊編入ノ爲身上證明書又ハ之ニ代ルヘキ書面(休暇證明書其ノ他)携行ノ上本年二月二十七、二十八日及三月一日午前十時ヨリ午後六時迄ノ間ニ於テ租國憲法擁護極東軍團應募受附所ニ出頭センコトヲ提言ス

健康状態ニ依リ軍團内諸部隊ニ於ケル勤務ヲ遂行スルコト能ハサル將校及陸軍勤務員ニ對シテ軍團内ノ義務的勤務ヲ免除スヘキ證明書

交付ノ爲應募受附所醫事委員會ニ於テ證明セラルル等

東清鐵道地帯及特ニ哈爾濱ニ於ケル將校陸軍勤務員ノ滯留ハ唯次ノ者ニ許可セラルル
イ、應募受附所内委員會ニ依リ免除セラルル者
ロ、滿洲ニ於ケル部隊司令部陸軍官衙諸機關ノ勤務ニ殘留スル者

ハ、極東軍團諸部隊ニ編入セラレシ者

(イ)及(ロ)ニ該當スル將校及陸軍勤務員ハ極東軍團勤務免除證明書ヲ所有スヘク、(ハ)ニ該當スル者ハ軍團各部隊在勤證明書ヲ所有スル

ヲ要ス

シルレハ兵營内將校宿泊所ハ閉鎖セラルル食堂ハ應募委員會ニヨリ免除セラルヘキ人員ヲ除キ晝食ノ無料給與ヲ停止ス

哈爾濱ニ未着セル總テノ將校及陸軍勤務員ハ相當ナル指示ヲ受クル為停車場守備隊長ニ申告スルコト

西伯利及極東ノ一般人民ハ祖國ニ對スル神聖ナル義務ヲ遂行スル為祖國及憲法議會擁護極東軍團特別支隊ニ參加セラレンコトヲ望ム年
齡十八歳ヨリ四十歳迄ノ義勇兵ハ本年三月四

日、五日午前十時ヨリ午後六時迄ノ間ニ軍團應募受附所(衛戍集會所)ニ軍團各部隊編入ノ為身上證明書携行ノ上出頭センコトヲ望ム

委員會ハ強迫者タル過激派ヨリ祖國ヲ救フ為危殆ニ瀕セル祖國ニ對スル義務トシテ諸子ノ犧牲的自覺心ノ奮起ニ依リ委員會ノ應募ニ對シ異論ナク總テノ軍人ヲ結合セシメ委員會ヲシテ此ノ目的遂行ノ為強制的手段ヲ採ルニ至ラシメサルコトヲ確信ス

應募委員會ニ依リ勤務ノ免除ヲ受ケスシテ任意ニ出頭セサル總テノ將校ニ對シテハ特別人

名簿ヲ作製シ一般ニ公表セラルヘク正當ナル
露國政府復治後永久ニ軍務ヨリ除名スル為該
政府ニ提出セラルヘシ
右ノ外義務遂行ヲ回避シタル將校ハ社會ヨリ
非議ヲ受クヘク且滿洲退去ヲ提言セラルヘシ
祖國及憲法議會擁護極東軍團編入ノ將校及軍
隊勤務員ハ軍團解散迄勤務スルノ義務ヲ有シ
唯特別ノ場合ニ於テノ幹部ノ特別ナル許可
ヲ以テ勤務ヨリ免除セラルコトヲ得又自由
ナル露國擁護者ノ職務ト相容レサル不良行為
アルトキハ裁判ニ依リ除名セラルヘキモノト

ス軍團各部隊内ニ於ケル勤務ハ金銀ノ如キ軍
紀ノ上ニ基礎ヲ有シ軍團員ハ凡テ政黨ノ外ニ
超然タルヘキモノトス
軍團内ニ於ケル勤務ノ條件ニ就テハ募集委員
會ニ於テ問合ハスコトヲ得

一九百十八年二月二十三日哈爾濱市
祖國及憲法議會擁護極東委員會

二、哥薩克軍司令部員ノ拘禁(和報一九一三年三月)
オムス、コ、哥薩克兵卒委員會ハ二月八日在オム
ス、市西部西伯利哥薩克軍司令部員全部ヲ拘

禁セリ是該司令部ニ曩ニ解散セシ哥薩克ノ各部隊ヲ其ノ後各地ニ於テ地方守備ノ名目ノ下ニ密ニ募集シ再ヒ部隊ヲ編成シ機ヲ見テ反革命的運動ヲ起サントスル陰謀ヲ企テタル爲ナリ

三、^レ夕^レ過激派ノ狀況

(二月十九日)

最近^レ夕^レ市ヨリイルグーツ^レ市勞兵會ニ對シ左ノ如ク通牒セリ

戰線ヨリ夕^レ市ニ歸着セシ哥薩克聯隊ハ同市ノ政權ヲ過激派ノ手ニ獲得セリ衛兵哨

所卸便電信諸銀行等モ全部過激派ニ移レリ及過激派ノ領袖ハ何レモ拘禁セラレ白衛軍ハ其ノ所有スル武器ヲ全部押収セラレタリ約一箇月間存在セシ後貝加爾州會モ亦解散セリ哥薩克ハ労働階級ト一致ノ行動ヲ執リ市内ハ平穩ニシテ一人ノ死傷者ナシ

過激派各機關合同委員會革命軍司令部

參謀長 キルギーゾフ

四、過激派ノ鑛業差押

(二月十九日)

在^レ工^レニセイスク^レ縣^レミヌシンスク^レ市ニ於ケル勞

兵會ハ坑夫其ノ他ノ勞働者ヲ煽動シ「又シン
ス」郡ニ於ケル「オリホフスキー」金坑及「イズキ
フスオー」炭坑ヲ押収シ尚「オリホフスキー」金坑
ヨリ在「シ」又「シン」国立銀行支店ニ供托中ノ
金塊十布度六「フ」ト餘ヲ没収セリ其ノ結果該
金坑ハ資金盡キ事業ヲ閉鎖スルニ至レリ

五、地方紙幣ノ發行

(ハル朝一ウエスト日)

「ト」ムスク縣會ハ「ト」ムスク縣支金庫ノ貨幣盡滅
シ一般行政上多大ノ支障ヲ来セシヲ以テ同縣
民ノ財産ヲ擔保トシテ此際五百萬留ノ紙幣ヲ
發行スル件ヲ可決セリ該紙幣ノ單位ハ留ニシ
テ追テ中央政府ヨリ留紙幣ヲ受取りタル後引
換フル計畫ナリ

六、鐵道ノ輸送力減退

(ハル朝一ウエスト日)

露西亞内國一般諸鐵道ノ輸送能力ハ多ク益々
減退シ千九百十七年十一月中(露曆)ノ戰線及後
方ニ於ケル一晝夜ノ貨物積込高ハ平均二萬一
千二百二十九貨車ニシテ之ヲ千九百十六年ノ
同月ニ比シ一萬三千七百三十輛ヲ減少セリ又
「アル」ハンゲリスク港ヨリ積出ス貨物ハ平均一

日二百五十貨車ナリシカ當今ニテ八百十四貨車ニ減少シ浦塩ヨリ積出ス貨物ハ從來一日平均百四十三貨車ナリシカ當今ニ至リテハ僅々五六貨車ニ減セリ諸鐵道ノ輸送力著シク減少セシ原因ハ種々アレトモ機關車ノ缺乏カ其ノ主ナル原因ナルカ如シ

即チ千九百十七年露曆十一月初旬現在全國諸鐵道ノ機關車ハ合計二萬一千八百八十七輛ニシテ内破損修理中ノモノニ割一分四厘ニ達ス又同期ニ於ケル貨車ノ總數ハ五十六萬三千七百五十八輛ニシテ内修理中ノモノ三萬八千七百

五十八輛ト計上セラル之ヲ要スルニ諸鐵道ノ貨物輸送力ハ凡ソ二分の一ニ減少セリ

七、酒精「ウオットカ」ノ釀造及販賣解禁

(新聞名不明)

東清鐵道附屬地ニ於ケル酒精及「ウオットカ」ノ釀造及販賣ヲ禁止セシカ今回其ノ禁令ヲ解キタリ

八、發疹「ヤフス」ノ流行 (同上)

東清鐵道沿線ニハ發疹「ヤフス」流行シ殊ニボグ

ラニ一十ヤハ其ノ勢猖獗ニシテ既ニ死者六十名ニ及ヘリト、横道河子ニモ患者發生セリト

九、米國技師ノ來着

(同上)

米國鐵道技師團ノ第一梯團三十名ハ近日中ニ哈爾濱ニ到着ノ豫定ナリ之カ爲東清鐵道地方部ハ右技師一行ノ官舎トシテ鐵道橋附近ノ兵營ヲ使用スヘク準備ニ着手セリ今回到着スヘキ技師ノ第一梯團ハ七日間哈爾濱ニ滞在スト尚同團長ヘフキレシスペラート技師其ノ他ハ既ニ到着セリ米國技師團全員百五十名ナリト云フ

一〇、新西伯利政府

三月二日「イルクーツ」ヨリノ報ニ依レハ同地各派聯合會議ノ結果全西伯利ヲ聯邦共和國タラシムルニ決シタリト尚之ニ關シ三月三日滿洲報ハ二十八日露都發電トシテ左ノ記事ヲ掲ケタリ

總裁

- 陸軍省議員 「ミユミヤトスキー」
- 内務省議員 「ラゾ」
- 外務省議員 「ルイツキン」
- 農務省議員 「ウエインバウム」
- 「タナナイロ」

文部省議員
 労働工業省議員
 大蔵省議員
 糧食省議員
 司法省議員
 國家財産省議員
 救済省議員
 逓信省議員
 郵便電信省議員
 政府員中過激派十一名
 十リ

バルニヤークフ
 アロコピエフ
 ヤンソン
 コロスツイレフ
 ホステロフスキー
 レベデフ
 シエプシエレウイ
 鐵道委員會々長
郵便電信合同局長國民執政委員秘書長トリセル

二、鐵拳ハ理論ニアラス

東清鐵道機關紙ノ論調一変シタルハ大ニ注意スヘキ現象ニシテ二月二十六日發行ノ同紙ハ首題ノ下ニ左ノ如キ社説ヲ掲載セリ

今回獨逸カ公然過激派及其ノ黨與ニ對シテ一定ノ目的ノ下ニ戰鬪行為ノ開始ハ其ノ裡面ニ無併合無報償ノ旗幟ノ下ニ全露國ヲシテ宛然彼ノ亞弗加カ乃至「メラネジヤ」ノ如ク何人ノ所領ニモ屬セサル「ピンテルランド」タラシメ以テ自家藥籠中ノ物タラシムル第二ノ目的ヲ有スルコト明カナリ

斯ノ如ク今ヤ獨逸ハ大軍ヲ露領内ニ進出セシ
メ以テ商工業上自國ノ立脚地ヲ堅定セントス
ルノ企圖ハ露國ノ同盟國タル英佛側ニ一大恐
慌ヲ起サシムルニ至レリ英國及佛國ノ民主々
義ハ日耳曼ノ軍國主義乃至露國ニ於ケル勞兵
會首領ノ七國的能力ニ關シテハ寸時モ警戒ヲ
怠ラサルモ如何ニセン優勢ナル敵ニ遮断セラ
レ以上兩者共日耳曼ノ此ノ表裏的成效ニ對シ
歐露ニ在リテハ抵抗ヲ試ミル能ハス今ヤ其ノ
正反對ホル極東ニ於テ行動ヲ開始スルニ至レ
リ

最近哈爾濱及東清鐵道地帯ニ於テ生シタル出
未事ハ聯合諸國カ日耳曼主義及其ノ爪牙タル
過激派ニ對シ宣戰セル直接及響ト者取シ得ラ
ル要スルニ今回ノ世界的大戰ニ處シテ聯合與
國カ露國ヲ救済云々ハ其ノ實對日耳曼諸國ノ
夫子自身ノ御都合ニ外ナラス故ニ露國過激派
トノ争鬪中極東ニ於テ最利害ノ關係深キ日支
兩國ノ参加スヘキハ自然ノ勢ナリ又吾人カ下
文ニ掲載セル過激派ト日本人(サウスマン)ニ
リアデーリニユースノ所論ナル一文モ吾人
ノ所論ニ裏書キスルモノナリ

現時滿洲ニ於ケル諸般ノ問題ハ此ノ重大ナル
出来事及廣汎ナル國際的關係ノ變遷ニ適從シ
テ觀察セサルヘカラス政治的破壊ノ忌ムヘキ
經過ハ露國救濟事業ニ單獨的テウ變體ノ畸形
兒ヲ生セリ而シテ此畸形兒中其ノ彩色ノ最濃
厚ナルハ所謂局地的行動トス壊裂セル露西亞
ノ與國ハ一方及日耳曼主義ト他方ニ於テハ勢
ヒ此ノ主義ヲ助長セシムヘキ事ニ全力ヲ傾注
セントス者ヨ其ノ行動タル縱シ局地的ナルニ
セヨ露國內ノ過激派ニ對スル行動ハ與國側ヨ
リ多大ノ同情ニ與レリ今ヤ外國人カ對過激派

戰ニ參加シ居ルコト一點ノ疑ヲ存セス東清鐵
道地帯ニ於ケル反過激運動ノ為要スル兵力及
材料ハ與國側ヨリ生セリ又此ノ舞台ヲ露領内
ニ移動セントスルノ企圖モ與國側ノ考案トス
畏等ノ企圖ハ從來種々ナル外交的辭令ノ下ニ
掩蔽セラレ個人乃至團體ノ秘事トシテ實行ノ
步ヲ進メタルモ今ヤ既ニ實行期ニ入り外國ノ
新聞紙ハ公然之ヲ論議スルニ至レリ
斯ノ如ク與國カ過激派トノ争ヒニ參與スルハ
獨塊側ヲシテ露國ヲ味方トシ其ノ勢力ヲ伸張
セシメサラントスルニアリト借問ス此際外人

ト協商シテ彼等ノ援助ヲ仰カントスル露國政
黨ノ目的ハ那邊ニ存スルニヤ此ノ疑問ニ對シ
テハ恐ラク今回突如トシテ起レル祖國及憲法
議會擁護極東委員會ナルモノノ布告文其ノ解
釋ニ當ルナラン該委員會ハ武器ヲ執リテ過激
派ニ當リ秩序ヲ恢復シテ國家ヲ樹立セシメ且
憲法議會ヲシテ立法業務ヲ遂行セシメ得ル様
吾人等ニ擧セリ

然リト雖斯ル目的ハ政界ヲ左右スル廣キ階級
ノ贊助ヲ受クルニアラサレハ到底達成スル能
ハス若シ此ノ贊助無ケレハ活力ノ補充其ノ他
三

秩序維持ノ爲創設的公共機關ノ根柢ヲ築ク能
ハス遮莫此ノ贊助ヲ得ルノ方法如何最近哈爾
賓及東清西部線ニ起リタル出来事ハ此ノ質疑
ニ對スル好例證ニシテ秩序ノ維持及立法議會
擁護ノ名ノ下政敵ハ勿論其ノ他ノモノヲモ容
赦ナク殺戮シ戰慄スヘキ悲劇ヲ演出セリ略言
スルニ此ノ徒ハ縱シ自己ノ命令カ非理不當ナ
ルニモセヨ武力ノ威嚇ノ下ニ諸般ノ命令ヲ實
行セシメントス
暴ニ對シテハ暴ヲ以テ報ヒ得ルモ暴ヲ抑制ス
ル能ハス甲ノ奴隸境遇ヨリ乙ノ奴隸境遇ニ陷

リタル者ハ決シテ後者ノ境遇ニ甘ニスル能ハ
ス祖國及立法議會極東委員會ノ行動カ國民ノ
廣キ階級ヨリ同情ヲ博シ得サルハ従来鐵拳ヲ
理論ト認メタルカ爲トス斯ノ如ク對者ノ如何
ヲ問ハス鐵拳政策ヲ委員會ノ政綱ト爲ス以上
聽テ此ノ會モ過激派ノ如ク公然反抗ヲ受クル
ニ至ラン鐵ノ如キ軍紀ハ軍隊ニ在リテノミ用
才得ラレ國家ノ創設事業ハ意思言論及批評ノ自
由ヲ缺キテハ成效スル能ハス

三、哈爾濱市執政委員會ノ東清鐵道長官

ニ宛テタル警告

(三月一日) 滿洲報

二月九日(二十二日)夜市執行委員會々場ニ於テ
今回新ニ組織セラレタル立法議會極東擁護委
員會ニ對スル態度ヲ協議スル爲公共機關幹部
ノ會議ヲ開キタルニ同九時頃支那政府ノ代表
者ハ傳家甸警務署長並武裝シタル護衛兵ヲ從
ヘテ會場ニ臨席シ會議ヲ中止セシムルコトナ
ク傍聽席ニ着席セリ議場ニ於テハ前會議ノ報
告ニ關シテ質議ヲ終リタル後會長ハ支那官憲
ニ對シテ何故ニ武裝者ヲ臨席セシメタルヤト
質問シタルニ支那官憲ハ今日ノ場合集會乃至

會合ヲ許可スルハ當警察ニテ認知セル規則ニ
基キ組織セラレタル公共機關ニ限ルモノニテ
支那官憲カ當市ニテ認めルモノハ鐵道廳ト市
會ノミナリトノ言ヲ以テセリ茲ニ於テ會長ハ
他ノ公共機關モ亦警察及鐵道長官モ認知ノコ
トニテ現ニ業務上種々ノ關係ヲ有スト駁シタ
ルニ支那官憲ハ斯ルコトハ吾人等ニ何等ノ關
係ナシト空嘯フキ更ニ何等ノ理由ニテ當會議
ニ武装者ヲ臨場セシメタルヤト詰問シタルニ
彼答ヘテ曰ク當會議ノ目的及意圖明カナラサ
ルト且當市ニハ支那領土内ニ於ケル鐵道ノ行

政ニ妨害セントスル團體アリシカ爲武装者ヲ
臨席セシメタリト會長ハ更ニ當會議ハ何人ヲ
モ攻撃セントスルニアラス且鐵道ノ行政ニ干
渉セントスルモノニアラスト注意シタルニ武
裝者ハ退場セリ之ヨリ立法會議議員「ストレルコ
」氏ノ報告ヲ聽取シタル後支那人ハ悉ク退場
シタルモ其ノ際彼等ノ代表者ハ今後支那警察
ノ認知セサル此ノ種ノ會合ハ許可セストノ言
ヲ以テセリ

述上ノ如キ經過ヨリスルニ東清鐵道地帯ニ居
住スル露國人ハ將來ニ亘リ二月ノ革命ニ於テ

羸々得且臨時政府カ特ニ法律ヲ以テ布告セル
文明及民法上ノ總テノ權利(言論集會結社ノ自
由及身體ノ不可侵權等)ヲ剝奪セラレタルハ勿
論更ニ事實上ニ於テハ千八百九十六年八月ニ
十八日ノ租借條約ニ基キ鐵道租借地帯ニ於ケ
ル治外法權ヲ喪失セルモノト謂フヘシ而モ
此ノ治外法權タル舊帝政時代ノ官僚スヲ特ニ
擁護セル一要件タリ
抑々執行委員會ハ東清鐵道廳ト協議ノ上哈爾
濱市内ニ行動スル一ノ公共機關ニシテ且成立
以來一回タリトモ滿洲ノ行政權ニ干涉ヲ試シ

タルコトナシ然ルニ今ヤ左ノ事ヲ一言スルノ
要アリ

現時哈爾濱ニ在リテ前假政府ノ意思ヲ代表
スト自身ニ思惟シツツアル露國ノ行政機關
ハ近時支那官憲カ既設ノ各種公共機關ヲ滅
絶セントスル行為ニ對シ外交上之ヲ警告ス
ヘキ何等ノ手段ヲモ盡サス且支那官憲ノ不
法行為ニ對シ毫モ抗議ヲ提出セサルハ未タ
シモ及テ彼等ノ行動ヲ辯護シ是露國ノ行政
ニ干涉スルニアラス愛國ノ至情ヨリ出ツル
モノト解釋スルヲ常トセリ

在哈爾濱總領事ハ露人ノ利益ヲ擁護セス露國
公共機關ト支那側トノ葛藤ニ對シテハ東清鐵
道ノ權威ヲ全然失墜セシムルニ至レリ者ヨ現
ニ千八百九十六年八月二十八日ノ租借條約ニ
ハ鐵道地帯ニ於ケル露國人ノ治外法權鐵道廳
ノ租借地ニ對スル特殊ノ行政權等ニ就キ明記
シアルニアラスヤ若シ支那警察官吏ニシテ任
意ニ露國ノ良民力集會ヲ催セル會場ニ踏ミ込
ミ銃劍ヲ以テ集會ノ解散ヲ命スルノ權利アリ
ト信シ刺ヘ條約ヲ無視シテ露人ノ公共業務ニ
干涉シ且此ノ事ニ就キ豫メ露國官憲ト交渉ヲ
云

モ試ミス宛然支那人ニ對スル如ク隨意ニ行動
スルトセハ租借條約ノ明文ハ何等ノ權威ヲモ
有セサルニアラスヤ

在哈爾濱露國領事ハ今回編成セラレタル祖國
及立法議會擁護極東委員會ノ會頭タルコトハ
貴下ノ知ラルル所ナラン然レトモ二月二十ニ
日ニ於ケル出来事以來吾人ハ問ハン領事ノ所
謂祖國トハ支那ナルヤ將露西亞ナルヤ又立法
議會トハ露支何レノ立法議會ヲ擁護セントス
ルニヤ假ニ領事ニシテ露國公共機關ノ敵タラ
ントセハ吾人亦何ヲカ曰ハン由來我公共機關

ハ極東ニ於テ吾人等ヲ敵トスル露國領事ニ接
シタルコト一再ニ止マラス然レトモ東清鐵道
廢權利ノ擁護者ヲ以テ自認セサルヘカラサル
ニアラスヤ借問ス領事ハ目下露支兩國政府ノ
何レニ服務スルニヤ法律上東清鐵道廢ノ權利
ハ頗ル複雑ヲ極ム苟モ領事タル以上政黨政派
ノ如何ニ關セス之ヲ知ラサルノ理無シ若シ露
國領事ニシテ哈爾濱ニ於ケル露國ノ公共機關
トノ争ヒニ驅ラレ此ノ機關ヲ敵視スルト共ニ
國家就中鐵道廢ノ事業ト密接ノ關係アル國家
ノ利益ヲ唾棄セントスルノ意ナラハ當執行委
員會ハ領事ニ對シ改メテ左ノ事ヲ質問セン
云

如何ナル政府ニ由リ領事ハ哈爾濱市ニ於ケ
ル全權ヲ委任セラレタルモノト信スルカ又
領事ハ如何ナル時期迄前假政府ノ合法ナル
代表者ト信シ得ルト爲スニヤ
前假政府ハ何等ノ報償ナク東清鐵道ヲ支那ニ
還附スルノ意思ナカリシコトハ世人ノ知悉ス
ル所ナリ
極東ニ於ケル露國ノ公共機關タル哈爾濱執行
委員會ハ貴下ヲ東清鐵道ノ代表者トシ左ノコ
トヲ告知セン

極東ニ於ケル露國ノ利益ハ東清鐵道ト一身
同体ナリ然ルニ今ヤ非常ニ危險ノ位置ニア
リ夫ノ自ラ祖國ノ救濟者ト稱スル者ハ宜シ
ク千八百九十六年及千九百九年ノ租借條約
ニ明記セル趣旨ニ適合シテ其ノ立場ヲ明カ
ニシ將來ニ於テ左黨タルト右黨タルトヲ問
ハス東清鐵道地帯中苟モ過激派式權力存在
ノ可能ヲ除去セサルヘカラス而モ此ノ權力
タル過激派カ乃至露國領事ナラン
前哈爾濱過激派ノ權力ニ就テハ今日既ニ云為
スヘキ秋ニアラス然レトモ在哈爾濱露國領事
ス

ノ權限ニ關シテハ支那ト締結セル條約ヲ一覽
セハ明カニシテ畢竟スルニ東清鐵道地帯ニ於
ケル行政及司法權ハ悉ク東清鐵道廳ニ屬ス而
シテ夫ノ露國領事ニ至リテハ假令露國ノ中央主
權ト關係ヲ喪失セサル場合ニアリテモ單ニ居
住權ヲ有シ行政及司法權ノ何レヲモ有セス
斯ク如ク東清鐵道建設及營業條約第六條ニ基
キ鐵道地帯ニ於ケル行政權ハ絕對ニ鐵道廳ニ
賦與セラレタリ
更ニ東清鐵道會社定款(千八百九十六年十二月
四日裁可)第八條ニ依リ支那政府ハ鐵道及鐵道

勤務員ニ對シテ外部ヨリ受クヘキ諸般ノ攻撃ニ對シテ其ノ安全ヲ保證スルノ責任ヲ負擔セリ其ノ他鐵道及其ノ附屬地ニ於ケル秩序及安寧ノ保持ニ關シテハ會社ノ任命スル警察官ニ命シタルモ露國領事ニモアラス又支那政府ニモアラス

前記ノ二條ヲ一讀スルモ支那ハ鐵道地帯ニ對シ一ノ個人會社タル東清鐵道ノ利益ヲ圖リ一部ノ權利ヲ保留シタルモノニテ租借地帯ニ於ケル行政權ハ舉ゲテ會社ニ讓與シ此ノ地帯ヲ支那ノ法治下ニアル滿洲ノ他ノ部分ト全然區

元

別シ特殊ノ位置ニ置ケリ

故ニ東清鐵道地帯ニ於ケル該會社ノ權利ハ租借期ヲ通シテ司法及行政上支那及露國ノ他ノ部分トハ全然除外セラレタルモノトス

又ニ鐵道地帯ニ棲息スル外國人ノ治外法權ニ關シテハ神聖ニシテ千八百九十六年ノ條約モ現行條約ヲ廢棄スル能ハス

總テ前記ノ理由ニ依リ貴下ニ委任セラレタル鐵道地帯ニ居住スル露國人ハ二重ノ治外法權ヲ有スルモノニテ支那政府及露國領事兩者ノ法權外ニアリ彼等ハ支那ニ居住スル外國人ニ

同シク支那ノ法律外ニ在ルト共ニ又露國領事ノ法律外ニ在リテ租借地帯外ニ於ケル露人ノ如ク領事ノ權能ヲ彼等ニ適用スル能ハス換言スルニ千八百九十六年八月二十八日ノ條約ヲ以テ東清鐵道會社ニ與ヘタル權能ハ此ノ地帯ニ於テ露支兩國ノ法律ヲ除外シタルモノナリ此ノ見地ヨリスルニ在哈爾濱露國領事ハ租借地帯ニ於ケル露國民ニ對シ如何ナル自己ノ權能ヲ得タリトスルニヤ
千八百九十六年八月二十八日ノ條約文ニ依ルニ領事ハ單ニ哈爾濱ニ居住ノ權利ヲ有スルノ

ミニテ行政及司法ノ權利ヲ有セス若シ在哈露國領事ノ位置ハ一種ノ特異ノモノトセハ吾人ハ問ハン特ニ鐵道地帯文涉局長ナル一機關ヲ設ケタルノ趣旨如何千九百九年ニ哈爾濱露國領事ヲ設ケルト共ニ前記ノ機關ハ廢止スヘキ筈ナリ然ルニ今日迄モ尚存在シテ支那官憲トシテ交涉ハ悉ク彼ニ由リ行ハレ領事ハ之ニ關係セス

支那官憲ノ代表者ハ恐ラク豫メ其ノ所謂祖國及立法議會擁護者ト自稱スル哈爾濱露國領事ノ訓令ヲ受ケ二月二十二日ノ公共機關會議ニ

蒞ミテ曖昧ナカラ當哈爾濱ニハ支那ニ屬スル
鐵道租借地ノ行政ニ干涉セントスルノ機關ア
リシト諷シタルナラン而モ此ノ諷刺タル千九
百十七年十二月二十六日ニ解散セル勞兵會ヲ
意味シタルモノトス然ルニ支那官憲力尚モ曖
昧ノ言辞ヲ弄シタルハ如何ニ支那官憲タリト
モ今日ノ場合當哈爾濱ニ支那ノ主權乃至支那
カ好意ヲ以テ東清鐵道會社ニ讓與セル權利ニ
對シ迫害セントスルカ如キ一ノ公共機關アラ
サルコトハ彼等亦知悉セル爲ナラン
勿論支那ノ官憲モ露國領事カ土地ノ公共機關
ニ

ヨリ支那トノ交渉權ヲ篡奪セル以前ニアリテ
ハ或ハ此ノ事ヲ知ラサリシナラン然レトモ自
稱極東擁護者タル露國ノ一行政官領事ハ此ノ
事ニ就キ哈爾濱ニ於ケル支那官憲ニ通知スル
ノ義務アルト共ニ一方露國外交官ニシテ租國
及立法議會擁護者ハ在北京露國公使カ貴下ホ
ルワツト將軍ニ宛テ電報ヲ以テ貴下ハ千八百
九十六年及千九百九年支那トノ條約ヲ以テ規
定セラレタル全權ヲ有スルヤトノ質問ト第二
ニハ土地ノ全公共機關カ之ニ對シテ發シタル
答電トヲ一讀スルノ要アリ此際單ニ市會ノミ

ナラス執行委員會モ亦此ノ問題ニ對シテ十分
確定的承認的(承認的)回答ヲ發セリ

免ニ自露支條約ハ勿論目下哈爾賓ニ存在スル
公共機關ノ行動ニ關シテモ支那官憲カ哈爾賓
ニ於ケル露國民ノ内事上干渉ヲ許スヘキ尙未
ノ理由ヲ認メス

如上ノ理由ニ依リ鐵道租借地帯ニ於ケル露國
ノ利益ヲ威嚇スル者ハ支那官憲ニアラスシテ
露國領事ナリ故ニ執行委員會ハ露國領事ノ煽
動ニ依ル支那官憲ノ干渉ニ對シテ抗議ヲ提出
スルト共ニ貴下ニ對シテハ租借地帯ニ於ケル
ニ

時局ノ發展ニ對シ哈爾賓領事ノ潜越的威力ヲ
除却スル爲適當ノ手段ヲ採ラレンコトヲ恊願
スルモノナリ

終リニ臨ミ此ノ事ニ關スル貴下ノ意見竝局外
者カ東清鐵道租借地帯ニ於ケル露國人ノ公共
事業ニ干渉スルヲ豫防スルノ手段トシテ如何
ナル方法ヲ採ラレタルカ至急御回答ヲ煩スモ
ノナリ

本書發送先

関東都督府民政長官 同 警務總長 関東憲兵隊長
参謀次長 陸軍次官 外務次官
朝鮮總督府武官 朝鮮駐屯軍参謀長 同 憲兵隊長
支那公使館附武官 坂西少将 支那駐屯軍司令官
青島守備軍参謀長 中支那派遣隊司令官 上海駐屯武官
台湾總督府陸軍参謀長 獨立守備隊司令官 第七師團参謀長
南滿洲鐵道株式會社理事長 長春領事

大正七年三月十九日接獲

警務了 第三課

田

大正七年三月十六日朝鮮憲機第一三二號

露領情況

鏡城憲兵隊長報告

秘受5418號

要旨

一、ホシエツト上陸ノ露國除隊兵ニ関スル件

二月十五日午後四時頃浦潮ヨリ武装セ
ル露國陸軍將校十三名下士卒三百名(騎
兵ナリト云フ)ヲ塔架セル露國軍艦一隻(砲六門ヲ
裝置シアリト云フ)「ホシエツト」ニ入港シ艦内ニ
於テ下士以下ノ肩章及襟章ヲ脱シ將校
以下全部ヲ同地ニ上陸セシメ全艦ハ全

有る名

日午後五時半頃便宜浦潮行普通旅客約
一百名ヲ便乘セシメ浦潮ニ碇航セリト
右陸上ニ將校以下ノ大部ハ碇化鮮人
ニシテ今回露獨媾和成立セシ為戦地ヨ
リ碇還除隊セラレシ者ナリト尚該兵ハ
各自軍服ヲ着シ軍銃及軍銃剣ノ支給ヲ
受ケ携帶シ居レリ
二、煙秋ニ於ケル露國軍隊ノ状況
煙秋ニ於ケル軍隊ハ本年二月中旬頃迄
ハ歩騎兵約百名残留シ居タルカ数月前

ヨリノ給料未着、為兵卒等ハ協議ノ上
 管内残留品ヲ賣却シ生活費ニ充當シ居
 タルモ最早俸營具ノ悉クヲ賣盡シ且給
 料ノ請求ヲ為スニ送付シ来ラサル為兵
 卒被服等携帶ノ供各自解散ニ々伍々何
 レニカ出奔シ目下歩兵五名島蘇里ヨサツ
 ク兵七名残留スルノニナリ而シテ残留
 中ノ一歩兵我謀者ニ対シ次ノ如ク語レ
 リ

陣營具中炊爨釜ハ多数アルニ煙秋ニ

テハ購入者ナキニ付慶興地方ニ購入
 者アラハ周旋セラレタシ若シカ購入
 者等ナキ場合ハ近ク解散ヲ為スノ外
 ナレ云々ト

以上

報告通報先

- 總 督、政務總監、總務局長、陸軍大臣、
- 參謀總長、關東都督、軍司令官、師團長、
- 憲兵司令官、内閣書記官長、拓殖局長官、外務次官、
- 關東警務總長、若憲兵隊長、關島隊員

秘受5419號

大正七年三月十九日發
三月十六日朝憲機第一二二號

警務部 第三課

宇野

浦潮情報報

浦潮派遺員報告

一、ハハロフスクノ捕虜ニ関スル件

(三月五日浦潮日報)

有田

最近捕虜ニ對スル勞兵會ノ態
度一變シ監督ヲ嚴重ニシ外出
ヲ禁止シ市內ニ住ミタル
者ハ皆一所ニ收容セラレタリ
俘虜逃亡ニ関スル件

ニヨリスク市勞兵會機關紙ノ記事
ニ依リハ左記ノ獨逸俘虜將校
スパースカ收容所ヨリ二月十七日
逃亡レ所在搜索中ナリトアリ
ガウケン

中脊 赤毛ノ類髭アリ
猶太人種的相貌

ブラウマン

文低キ方 丸顔
髭鬚ナシ

08117

三、スパースカノ停虜ノ外出禁止
 最近停虜ノ外出自由ニ許可
 ン居リシモ四五日前ヨリ收容
 所内ニ千ブス患者發生セシト飲
 酒乱暴賭博喧嘩等ノ事故頻々
 續出シ警察ニ於テモ取締リ難
 キニ依リ一時外出ヲ禁止セリ
 四、スパースカ在留邦人ノ引揚準備
 一度算獨媾和成立シ引揚準備
 田大使ノ引揚ケノ報ヲ聞クヤ
 既ニ國交断絶シ今ニ引揚ケ
 命令ニ接スルヤモ知レストテ
 中ニハ其ノ準備ニ取リ掛リ居
 ル者サハアリ一般ニ不安ニ驅ラ
 レツツアルカ三月一日午後四
 時ヨリ居留民會長相原氏宅ニ
 テ引揚ケノ豫測シ其ノ方法ニ
 就キ總集會ヲ開キ在ノ通決議
 一、若一朝引揚ケノ場合ハ在留

一、浦潮到着迄ノ汽車賃途中ノ
 二、食料及荷物運搬賃等シ一人
 三、民會ニテ集金ニ見積リ前以テ
 四、浦潮ニ於ケル宿舎料食料等
 五、著後領事館ノ指圖ヲ俟ツ
 六、汽車改メテ協議スルコト
 七、汽車ノ驛長ニ交渉シ二列車
 八、二客車ヲ借切リ分乘ス
 九、引揚ケ命令ニ接スルヤ各自
 十、三時間以内ニ荷物ヲ取り集
 十一、メ六時間以内ニ一定ノ場所
 十二、ニ集合スルコト
 十三、荷物ハ一人ニ付三個以上携
 十四、帶不可シ残餘ノ荷物ハ全
 十五、部取纏メ松原氏宅ニ残レ置
 十六、民一回ハ一致行動ヲ取ルコ

陸軍大臣
 陸軍司令官
 内務大臣
 内務事務官
 閣下警務局長
 警務局長
 各憲兵隊長
 憲兵隊長
 外務次官
 同島派遺員
 總務局長
 閣下警務局長
 憲兵隊長
 憲兵隊長
 外務次官
 同島派遺員

一、引揚々ニ関シテハ未定ノ間
 題トシテハ根リニ外國人等ニ
 口外セサル様或ハ氣付カレ
 サル様注意スルコト

一、引揚々ノ際ハ各自狼狽セズ
 静粛ニ醜態ヲ演セズ秩序正
 シテ出發スルコト
 一、拂戻スコトト同時ニ各本人
 ハ引揚々ト同時ニ各本人
 金一凡ソ四千留許リアリ
 一、現在民舎ニ貯蓄シツツアル
 最善ノ方法ヲ講スルコト
 但シ借切列車十キ時ハ別ニ
 ルコト

